2022 年 1 月 6 日　第 3474 回

出席報告
- 現在会員 138名
- 出席者 87名
- 欠席者 47名
- 出席免除者欠席 8名
- 今回例会出席率 66.9%

例会修正出席率
12 月 9 日
- メークアップ 24名
- 欠席者 25名
- 修正出席率 81.5%

●メークアップ　1/6 理事会17名　各　君

例会報告

米山奨学金授与

米山奨学生　ヴーティーハーさん

2021 年度 米山奨学生ヴーティーハーさんに山内 鴻之祐会長より奨学金が授与されました。

幹事報告

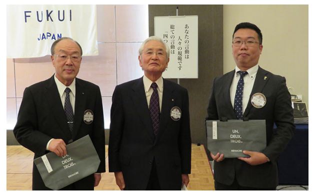
幹 事　浅井　正勝

① 来週の例会は新年例会です。夜間例会として、開花亭で行います。１８時受付開始、１８時３０分開会点鐘です。お間違えの無いようお願いいたします。
② 本日、例会終了後、聚楽の間にて理事会を行います。参加される理事役員皆さま、よろしくお願いいたします。

栄誉行事

皆出席御祝

須賀原 和広 会員 (9 年)
白江 文夫 会員　(5 年)



在籍御祝

片岡 正明 会員　(35 年)
市橋 信孝 会員　(15 年)
藤本 潤一 会員　(15 年)

配偶者誕生日御祝

北島　恬 会員・奥村 隆司 会員・吉田 清二 会員
齊藤 英夫 会員・荒本 秀一 会員・細江　究 会員
渡辺 一史 会員・片山　元 会員・酒井　孝 会員

誕生日御祝

菅原 将高 会員・初瀬川 達郎 会員・坂本 安夫 会員
木下 勝元 会員・大森 正男 会員・小野田 亮 会員
渡邉 義信 会員・野路 純平 会員・石丸 敦士 会員

結婚記念日御祝

山野井 秀一 会員

講話【ロータリーの原点を学ぶ】

片岡 正明 パスト会長

本日は「ロータリーの原点を学ぶ」と題し、「職業倫理訓」の逐条解説を通じてロータリーンの歴史的職業奉仕についてお話しすます。倫理訓の前文では「ロータリーの職業倫理はロータリアンに共通する “ 人間性に基づく思い遣り ” を心に留めるものである。職業生活のあらゆる場面で考えねばならないことは、取引等の利害関係を終えた時に果たされる責任と義務を最高の状態で満たすことである。人としての理念と業績の水準を極力高めねばならないと考えることこそロータリアンとしての義務であると理解して以下の職業倫理訓に従うことを高らかに宣言する」としています。以下、その１０箇条を解説していきます。

職　業　倫　理　訓

1、自分の職業に高い価値を認め、社会に奉仕する好機として考えるべし。

元来、ロータリアンは社会に有益な職業から一人一業種で選ばれる。よって、当然だが、泥棒、麻薬、売春等々反社会的組織に関わる職業からは入会出来ない。ロータリーでは職業のことを Vocation と呼ぶが、職業の職とは天即ち神仏から司る、業とは行為を指しており、天職を意味している。元来は、世襲制で引き継ぐ職業を天職と定義し、それを子々孫々、代々引き継ぐことを美徳と考えていたが、今は産業構造の変化や他業種転換等の為、厳密に定義することは困難である。社会に有益な職業は本人の自覚の有無に関わらず、社会に大きな貢献をしているものである。全ての職業はその職業を通じて社会貢献をしており、その見返りとして報酬を得ている。アーサー・F・シェルドンは小さな奉仕の見返りとして小さな profits が、大きな奉仕の見返りとして大きな profits が得られると語っている。社会に有用な全ての職業はその規模に関係なく、等しく社会に奉仕する為に存在し、ロータリアンは自らの職業を天職と心得、その職業を通じて社会に奉仕する絶好の機会を与えられたものと考えねばならない。

2、自分の修身と実力涵養に最大限の努力を払い、慈愛と感謝の心で奉仕の理念を深め、自分の奉仕を広め、職業奉仕に徹するべし。

社会に有用な職業から一人一業種で選ばれた裁量権のある代表者が毎週の例会に集い、事業上の発想の交換を以って互いの事業に対して良好なる精神的影響を与えるのがロータリーである。クラブ内では全ての会員は平等であり、事例によって時には師となり、時には徒となって集団で学ぶのがロータリーの特徴である。ロータリアンは裁量権を持った事業所の代表であるから、若しも自己が行っている事業態度が間違っていることに気付いたならば速やかに自己の是正や改善をすることが出来る。「ロータリーは人生の道場」である、又、「入りて学び、出でて奉仕せよ」という名言と共に、ロータリーの会合は人間教育の場であることが強調されている。

ROTARY CLUB of FUKUI

3、自分は職業人であると同時に、道徳を重んずる人間であると自覚して、最高の倫理的正義と道徳に基づいて成功することを誓うべし。

ロータリーの職業奉仕は 20 世紀初頭のシカゴにおいて、資本主義社会の側面である過酷な自由競争による地に堕ちた商道徳に対する社会改良運動として発展してきた。黎明期の当時は、法を犯さなければ、手段を択ばずに金を儲けた者が成功者として持て囃された時代であった。広告は誇大や虚偽が当たり前、騙すより騙される方が悪いとする風潮があり、商売人は詐欺師と同意語であったとさえ言われていた。このような時代背景の中で、シェルドンはビジネスを科学として捉え、正しい方法で事業を営むことが結果的に適正な利益を挙げて、継続的に事業を反映させることが出来ることを説いたのである。適正で継続的な利益を得ようとすれば、ロータリーの職業奉仕理念に従った正しく科学的な経営方針を採用しなければならない。その方法によって経営すれば最高の正義と道徳に基づきつつ、必ずその目的が達成出来ることになる。

4、自分の商品・製品、役務提供等々、自分の才覚や創意工夫を金銭と交換することは全当事者がこれによって利益を受ける限りにおいて、適法にして道徳に適うと信じるべし。

我々はその業種、職種を問わず、商品を売って利益を得たり、自分の技術やサービス或いはアイデアを提供して報酬を得ることによって生活をしている。元来、取引とは互いが必要とする物と物との交換や物と労務やサービスの交換から始まり、その後、品物やサービスとお金との等価交換に発展し、その過程で利潤という概念が生まれたものである。従って、その利潤は双方が納得する額であることが前提になる。基本的には品物を提供する側は原価と諸経費に利潤を上乗せした適正な価格を設定して販売するのであるが、この適正価格の設定は簡単に見えて、実は、非常に多くの要素によって影響を受ける。最近では、原価と諸経費に適正利潤を上乗せて価格を設定するのではなく、この価格なら顧客が買ってくれるであろう適正価格を設定せざるを得ない状況になってきた。特に、デフレ下にある昨今では、大幅な値上げは困難であり、適正価格での販売こそが社会的要求になっている為、生き残りを賭けて、コストの削減を図ることは経営者としての当然の努めとなっている。

5、自分の職業水準を向上させる為に最大限の努力を払い、自分の企業の経営内容が豊かで、業務処理の仕方が賢明であって、利益を生み、この実例に倣えば幸福の道が開けることを周囲の者に知らしめるべし。

ロータリーの職業奉仕の特徴は、職業奉仕を実践した結果として、継続的な利潤と高い職業倫理の双方が得られることである。自分が得た利益は決して自分一人で得られたものではなく、顧客である得意先、仕入先、外注先、従業員、金融機関、株主、国家等々企業を取り巻く関係者のお陰であり、自分の企業や事業所が維持できていることに感謝しなければならない。従って、自分が得た利益をこれらの人々と適切にシェアすれば、必ず、これらの人々全員から感謝の気持ちや満足感が得られることになる。その結果として、顧客はリピーターとなって購入を拡大し、従業員はより良く働いてくれること等に繋がり、その事業は継続的に益々発展すると言うのがシェルドンの職業奉仕理念である。自分の事業上の行為に倫理的観点から少しでも疑義を感じた時には、自分の都合の良いように解釈するのではなく、直ちに自分の行動を改善せねばならない。職業奉仕の究極の目標は職業倫理を高めることであり、ロータリーが提唱する職業奉仕の実践に務めれば永続性のある健全な経営と最高の利益が保証されることを自分の事業を実例として証明すれば他の同業者もあなたの事業態度を見習うことになる。それが延いては、業界全体の倫理基準を引き上げていくことに繋がる。ロータリアンは自分が所属する業界のリーダーとしてロータリーの奉仕理念を広めて全体の倫理基準を高める責任を持っている。

6、同業他者に勝るとも劣らないほどの完全な真心のサービスを尽くす方法で企業経営を行うべし。もしも、真心のサービスに良否の疑念が生じた時は、妥当な範囲を超えてでも徹底した奉仕を行うべし。

自分が売った商品や行ったサービスに対するアフターサービスは他の同業者が行っているよりも期間、量、質ともに、より徹底したものでなければならず、ロータリアンは自分の職業を通じて社会に奉仕しなければならない。シェルドンは創業しては潰れていく烈しい生存競争が繰り返されるシカゴの街中で、安定し、かつ成長する幾つかの事業所を見つけ、それらの事業所に特有のファクターを “ サービス ” と定義した。オーナーの誠実さや優れた経営管理、顧客が満足する品揃え、従業員の優れた接客態度や商品知識、売った品物に対する責任の如何が、その事業に繁栄をもたらすことになる。売った商品に対する責任、即ちアフターサービスの有無は顧客に魅力を与えるために必要な重要な条件の一つである。

7、職業人の最大の資産のひとつは公平無私なる友人である。真の友人は互いに何も要求するものではない、況や利益の為に濫りに友人の信頼を利用することのないよう倫理的かつ正当な人脈を築き、大切にすべし。

職業人にとっての友人は最大の資産の一つであり、友情を通じて得られる価値の大きさを認識する必要がある。ロータリー創立の動機が殺伐たる競争社会の中で胸襟を開いて何でも相談出来る友人を得る為であったことからも真の友情を通じて得られるものを大切にしたいとの考え方が窺えるところである。

8、社会秩序の立場から他人が絶対認めないような不正な方法によって機会を利用し、また、これによって得た人の成功を正当化することを絶対に避けるべし。

脱税、贈収賄、不公正取引、契約不履行、商標侵害、インサイダー取引等々、社会秩序の上で、他の人等が絶対に否定するような機会を利用して、不合理な商取引をすることが許されないのは当然である。常に社会秩序を守り、公正な商取引をしているが故に、その事業は世に有用であることを誇れるのであり、売り手は取引によって適正な利潤を得たことに感謝し、買い手は適正な価格で必要とする品物を入手出来たことに感謝することによって、その取引の永続性が保障されることになる。そして、その取引が従業員、下請け先、納品業者、顧客等々、その取引に関係した全ての人々に満足を与えてこそ初めて合法的、道徳的な取引と言えるのである。

9、人生の真髄は競争ではなく相互の協力･共生･支援である。経営もまた、競争ではなく社会貢献を目的として相互に協力し、共に繁栄すべし。

ロータリー創立の動機となったものは親睦であるが、当時の事業家達は心から語り合える友人のいない孤独感と激しい自由競争の中で、何時、落伍するかもしれないとの恐怖感を持っていた。同業者はお互いにライバルであり、その競争は熾烈を極めていた。そのような状況下で真の親睦を阻害する要素を排除する意味を含めて一人一業種の職業分類を前提としてロータリーは誕生した。その後、会員同士の相互取引による事業の発展へと進展し、クラブでは例会毎に会員同士の取引状況を報告し、連合会は全国、都市連合、地方都市レベルのロータリアン企業名簿を作成し相互取引を促したと記録されているが、時間が経過すると、やがて「取引にロータリアンとそうでない人とに差をつけてはならない」とロータリアン同士による物質的相互援助は内外から大きな批判を浴びて廃止されるに至った。1911 年にフランク・コリンズが発表した “Service, no t self” は正しく、このことを述べているのであり、その後にロータリーはモットーとして “Service above self“ を掲げている。ロータリアンの友情は信頼関係で成り立つのであり、いかなる理由があったとしても利益の為に友情を利用してはならない。更に、その友情はロータリアン以外の自分を取り巻く全ての人々に広げなければならず、同業者に対しても、お互いが競争相手ではなく、良き協力者であると言う態度で接することがロータリアンの責務であり、全ての行為の根底には友情と協力の思い遣りがなければならない。ロータリー運動は広く外部に向けて、高い目標に人々を導く為に存在していることを認識する必要がある。

１０、「自分が他人から、このようにして貰いたいと欲することをその人に対して行うべし」また、「己の欲せざるところ人にこれを施すことなかれ」という黄金律を信じ、我々は地上の天然資源が全ての者に均等･平等な機会として与えられてこそ人類社会は最良の状態となることを信じるべし。

「自分が他人から、このようにして貰いたいと欲することをその人に対して行うべし」とは、マタイ伝から引用されたものであるが、この言葉こそが奉仕理念の原点かも知れない。エジプト人は「他人の為に良かれと自ら望んだことを捜し求め、それをしてあげなさい」と、ペルシャ人は「あなたが人からして貰いたいことを、人にしてあげなさい」と、インドの仏陀釈尊は「他人の幸せを自ら望んで捜し求めなさい」と、中国の孔子は「己の欲せざるところ人にこれを施すことなかれ」と、モハメットは「あなたがしてもらいたくないような方法であなたの兄弟を扱ってはならない」と、ギリシャ人は「隣の人から敵意を抱かせるようなことをしてはならない」と、ローマ人は「すべての人が心に刻み込んでいかなければならない法律とは、あなた自身の社会の人たちを愛することである」と、モーゼの律法には「あなたが隣人からしてもらいたくないことを、隣人にしてはいけない」と、そしてマタイ伝には「すべての人にせられんと思うことは、他人にもその通りにせよ」と書かれている。このように、奉仕理念は人間の思考と同じほどに古いものであって、隣人に対して己を捧げることが道徳上の義務であり、人生のすべての面でそれを適用することを全体として説いたものである。アーサー・シェルドンは 1913 年の国際大会スピーチにおいて、この黄金律で述べている言葉は “He Profits Most Who Serves Best” と同意語であると述べている。この黄金律を信じると共に、国連が推進する SDGs にも提唱されるような、「地球の資源は人類共通のものである」と考え、他人を思い遣るロータリーの理念に基づいた公平なシェアーの心で臨むと共に人類の英知を集めて人口爆発と新資源開発に関する対処をしなければ世界の恒久の平和は訪れないのであると深く認識する必要がある。